

NPO等からの協働事業提案（新しい公共の場づくりのためのモデル事業分）

平成24年度中間報告書

1 事業実施内容

事業名	外国人児童生徒の放課後学習支援事業	
事業実施主体名	特定非営利活動法人 愛伝舎	
事業概要	<p>外国籍小中学生に週2回の学習支援を行う。長期休暇中は週3回、中学生はそれに加えて定期試験前1週間の集中支援。現在3人の支援者とコーディネーターが支援者会議を通して子どもに関する共通理解とよりよい支援を考えている。</p> <p>これらの学習、支援内容を運営委員会において取り上げ、外国籍の子どもの学習に必要な支援や外部組織への働きかけを各マルチステークホルダーの視点からサポートいただいている。</p>	
委託額	平成23年度	3,003,000円
	平成24年度	6,369,900円
マルチステークホルダー（会議体）の取組状況	●協働事業参加組織	
	多文化共生課、研究者（三重大教育学部）、地域（学習支援者）	
	●会議の実施状況	
	実施月日	会議の議題
	4月26日	学習者の課題克服に向けた支援方法の確認（月次支援者会議）
	5月14日	学習者の課題克服に向けた支援方法の確認（月次支援者会議）
	7月5日	夏休みの対応について（月次支援者会議）
	7月26日	個別学習支援の成果と課題、事業方向性の確認（運営委員会）
8月31日	学習者の課題克服に向けた支援方法の確認（月次支援者会議）	
取組内容	<p>●これまで取り組んできた内容</p> <p>学校教育のカリキュラムや子どもの成長を熟知している支援者によって、個々の学習者の伸ばさせたい能力や性質を引き出す支援を行っている。社会常識やマナーは文化と密接なつながりがあり、それを身近に学ぶ場が少ない外国につながる子どもたちに、日本社会でうまく生きていくためのスキルとして丁寧に教えている。学習者である子どもたちにとっても単なる勉強する場としてだけでなく、自分が育っていく居場所となってきている。学習日以外にも自主勉強をしにやってくる児童もいる。</p> <p>支援者に対しては視野を広げ、スキルを向上させるために研修に送り出した。通信をほぼ毎月保護者に発行し、子どもたちの教室での様子や家庭で心がけてもらいたいこと、協力してほしいことなどを発信している。また、保護者だけでなくEメッセージ登録をしている外国人に対してもワンポイントの話題を携帯に送信して、子どもの教育に対して目を向けるよう提案している。</p> <p>また、子どもの望むキャリア形成を踏まえての課題と解決方法を本人や保護者と面談を通して適宜確認している。</p>	
	<p>●当初（採択時）に計画していた内容から変更したこと</p> <p>津市のブラジル人学校の閉校によって、多学年による集団授業の場を失った。日本の小学校に通う外国籍の子どもたちの学童という特殊な集団だったため、これに代わる場を他のブラジル人学校に対して求めることができなかった。このため、集団支援については中止を余儀なくされた。</p>	

	<p>●現状の成果と課題</p> <p>日本語特有の表現を学習者、支援者双方が留意しながら学習することで問題文を流し読みする傾向が改善され、つまらないミスをしなくなりつつある。</p> <p>また、出会う人に対しての挨拶、遅刻したときの態度など、外国籍の子どもたちが家庭で学びにくい日本のマナーを教える場としても機能している。</p> <p>この教室での子どもたちの育ちがロコミなどによって広がりつつあり、今年度当初に比べて生徒数が2倍(4名⇒8名)に増えた。</p> <p>愛伝舎の取り組みを外へつないでいくことについては、各地のボランティア支援者や教職員に対しての働きかけを模索している。JSLカリキュラムの理念を活かした実践的な支援(外国人にわかりにくい日本語のデータベース化など)の構築を行いたいと考えている。</p>
<p>今後(平成24年度下半期)の取組予定内容</p>	<p>児童生徒に対する放課後学習支援に関しては従前通り変更なし。</p> <p>事業維持につながる活動および当事業の取り組みを広げる活動については、キャリアガイドDVD出前セミナーで連携した市町や学校を中心にして進めていく。</p>
<p>平成25年度以降の見通し</p>	<p>支援者の単価引き下げと月謝の見直しが必要となるが、自主事業による利益と寄付金の充当などにより、当面は維持可能。</p> <p>引き続き広報活動で生徒獲得の努力を続けていく。</p>

2 成果の達成状況等

平成 24 年度に達成しようとする成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習ができるようにする。算数(数学)で小学生は割る数が二桁の割り算をマスターするとともに、高学年児童は含有量の概念をわかるようにして文章題を解いていけるようにする。単元テストで70%以上得点生は文系科目の苦手意識を取り除き、数学で偏差値45～50を目指す。</li> <li>自律的学習習慣、生活規律および学習規律を身につけさせる。</li> </ul>			
具体的な指標の達成状況等	項目	当初目標設定	9 月末日の達成状況	平成 25 年 3 月末達成見込み
	①小学生	目標値(70%以上) / 現状(50%)	60%	70%
	②中学生	目標値(50%以上) / 現状(10%)	期末 40～60%	50～90%
	③高校生	目標値(日本語検定 3 級取得) / 現状(—)	日本語検定4級受験レベル(定時制通学のため夏休みだけ)	—
	④ブラジル人学校	目標値(80%以上) / 現状(60%)	—	—
	●成果指標の達成状況			
<p>人数の増加とともに、家庭教師型の支援から個別指導形式へ支援を変更して少しずつ自分で考えたり調べたりする活動を取り入れている。子どもたちも基礎的な問題を理解できるようになっており、どうすれば理解できるかという道筋が見えてきたことから、だんだん自分で学習を進めることができるようになりつつある。</p> <p>自分でできるという自信とわかる喜び、仲間と学び合う関係もでき、意欲につながっている。中学生は期末試験の数学で偏差値50以上をとる生徒が2名(当時4名中)出た。小学生、中学生ともに1学期の成績では数学の4つの観点のうち、「意欲・関心」については全員がA評価だった。</p>				
<p>教育的環境が整っていない家庭の小学生については欠席が多く、なかなか持続的な学習ができない状態である。意欲にもむらがあり楽な方に流れがちな生活なので、居場所的な存在である教室がろうじて教育環境として防波堤の役割を担っていると感じる。そして、欠席がちでもバスでの送迎をしている保護者の努力を愛伝舎の職員が家族のように応援している。これも教育的効果と考えることができる。</p> <p>また、無断欠席をせず学習日に時間を守って通塾することも習慣づいていて、支援者側との信頼関係が一層深くなっている。</p>				
●課題 および その改善方針				
<p>教室を維持するためには運営資金の確保が最重要課題である。そのためには財源のひとつである生徒の確保を常に図っている必要がある。</p> <p>保護者への啓蒙活動として、通っている子どもたちの保護者への通信発行、愛伝舎に登録している大人への携帯メッセージの配信を行っており、「愛伝舎が教育支援をしていること」を広めたり「子どもの教育の相談」ができることだと思ってもらい、生徒増の一助となることを期待している。南米の日系人に対する広報活動ではロコミが効果が大きい。今後も学校暦に合わせたタイミングでのチラシ配布を保護者や生徒の周囲にしていく予定である。</p> <p>そして、この事業の取り組みを愛伝舎だけに終わらせないためには引き続き関係部署への働きかけが必要である。今年度、愛伝舎は外国につながる子どもたちの進路支援を促進するための県の事業を受託した。この事業において県内各地の教育委員会や教職員の方々との連携が出来、民生委員児童委員と接点を持つことから、学校現場だけでなく自治組織へのアプローチが可能となっている。今後、これらの人脈を活用して協働事業の方向性を見極めながら連携を進めていきたい。</p>				
現状の	評価ランク			
自己評価	<p>■S:特に優れた成果が得られた      □A:優れた成果が得られた          □B:一定の成果が得られた      □C:限定的であるが成果が得られた      □D:成果が得られなかった          (該当する評価にチェックを付けてください)</p>			